



水泳

ぜんこくしょうがいしゃ
全国障害者
スポーツ大会
パラリンピック

身体障がい者と知的障がい者がプレーします。一般の水泳と同様に、自由形、平泳ぎ、バタフライ、背泳ぎが行われ、リレー種目や個人メドレー(パラリンピック)もあります。



ルール

競技は一般の水泳競技規則に則って行われますが、障がいのためやむを得ない場合のみルールを一部変更しています。スタートでは、多くのルール変更がみられます。



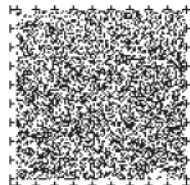
背泳ぎ以外は一般的に飛び込みでスタートします

水中からのスタートが認められる

障がいの種類や程度により、飛び込みスタートが困難な選手は、水中からのスタートが認められています。



水中からスタート



ポイント

タッピング 視覚障がい者へのサポート

視覚に障がいのある選手の場合、ターンやゴールの際、壁にぶつかってケガをしないように、コーチなどが選手の身体を「タッピングバー」で叩き、壁が近づいていることを知らせます。



身体を叩いて知らせる

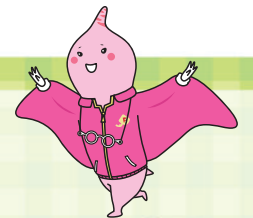
先端が柔らかい素材でできたタッピングバー



豆知識

スタートの工夫

スタート時、両腕が欠損している選手や障がいによって体勢が不安定な選手は、コーチなどに身体を直接支えてもらいスタートします。またスタートの合図音が聞き取れない聴覚障がいのある選手に対しては、スターターが身振りなどを使ってスタートを伝えます。



背泳ぎのスタートは、通常、スターティンググリップを握る



コーチなどが身体を支えてスタートする

